

会 員 各 位

日本細菌学会
理事長 神谷 茂

日本細菌学会名誉会員候補者と学会賞候補者の推薦依頼

上記に関し、会則および細則により日本細菌学会名誉会員と学会賞の選考を行います。つきましては、候補者を下記の要領にてご推薦下さい。

I. 日本細菌学会名誉会員

1. 提出書類

- | | |
|-------------------------------------|--------------|
| イ. 5名以上の評議員の連名による推薦状 | 原本一部およびコピー8部 |
| ロ. 履歴書ならびに業績目録（原著，総説，著書） | 8部 |
| ハ. 主たる研究業績をまとめた抄録（1,500字以上2,000字以内） | 8部 |

提出書類の様式見本は事務局にございますのでご連絡下さい。

連絡先：gakkai23@kokuhoken.or.jp

2. 推薦締め切り日 平成24年8月31日（金）

3. 提 出 先 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル4F
（一財）口腔保健協会内
日本細菌学会
理事長 神谷 茂

提出方法:上記の書類を1つのファイルにまとめていただき、そちらを8部お送り下さい。

※「5名以上の評議員の連名による推薦状」については、原本もお送り下さい。

名誉会員選考細則

- 本学会は本学会の事業に多大な貢献をした会員を名誉会員として推薦する。名誉会員は次の2種類とする。
 - 名誉会員（以下名誉会員）本会に特に功労のあった会員で、原則として70歳以上、推薦を受けた時点で本会の役職についておらず、第2条の規定をみたすもの。
 - 特別名誉会員（以下特別名誉会員）上記に該当しないもので、我が国の細菌学および関連領域の研究、また学会に顕著な貢献をしたもの。
- 名誉会員として推薦を受けるものは、原則として30年以上の会員歴を有し、その顕著な業績により細菌学およびその関連領域の研究の進歩に多大な貢献をしたもので、以下の各号のうちいずれかに該当するものとする。
 - 本学会に理事長または年次学術総会長として貢献したもの。
 - 本学会に役員（理事，監事，評議員）または支部長として合計12年以上貢献したもの。但し、同一期間に評議員とその他の役員もしくは支部長を兼任した場合、その期間は重複して加算しないものとする。
- 名誉会員候補者の推薦は、評議員5名以上の連名推薦届によって成立する。特別名誉会員は理事会において推薦を受ける。
- 名誉会員候補者は名誉会員選考委員会において選考され、理事会において決定される。特別名誉会員は評議員会の議を経て決定される。
- 名誉会員選考委員および委員会の運営。
 - 名誉会員選考委員会は評議員により、評議員中から選出された委員6名（ただし理事長，監事を除く）をもって構成される。委員長は委員の互選による。委員の任期は3年とし、毎年2名づつを新たに選出する。連続しての再任は行わない。
 - 選考委員の選出および委員会の運営については内規に定める。
- 本細則の改定は、理事会において決議し、評議員会の承認を得るものとする。

II. 平成25年日本細菌学会賞

日本細菌学会賞には、細菌学および関連領域の研究においておこなわれた優れた研究に対して、浅川賞、小林六造記念賞、黒屋奨学賞の3賞があります。各賞の趣旨は次のとおりです。

浅川賞：その分野で創造的かつ主導的な研究を行い、学会の発展に顕著な貢献をした研究者を顕彰する。

小林六造記念賞：新しい着想や未開発の分野の研究を展開しつつあり、独自性の高い研究の創成が期待される若手ないし中堅の研究者を奨励する。

黒屋奨学賞：新しい着想や未開発の分野の研究を展開しつつあり、独自性の高い研究の創成が期待される新進気鋭の研究者を奨学する。

この趣旨と学会賞選考細則に定める受賞資格者に適合する学会員を積極的に推薦してください。

推薦要項

- 提出書類（A4版で統一のこと）
 - 受賞候補者、業績題名、推薦者名（日本細菌学会評議員1名）を記した推薦書（400字程度）
 - 簡潔な説明をつけた主要論文（番号をつけること）の目録（浅川賞10編、小林六造賞10編以内、黒屋賞5編以内）
* 選考の主たる対象になります
 - 主要論文の別刷り
(2) の論文番号を別刷りの初ページに記すること
 - 主要論文を含めた関連論文のリスト
主要論文には標しを付けること
 - 受賞候補者が記載した業績の要旨（2000字程度）
当該業績の要旨には対応する主要論文番号を記入すること
 - 受賞候補者の履歴書（研究歴がわかるように記載すること）および全業績のリスト
- 推薦書類の送付先 〒170-0003東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル4F
(一財) 口腔保健協会内 日本細菌学会理事長 神谷 茂
- 推薦書類締め切り 平成24年7月30日（月）（消印有効）。推薦書類は返却しない。

提出方法: 上記の書類を(1)～(6)の順に1つのファイルにまとめていただき、そちらを11部お送り下さい。

学会賞選考細則

- 本学会は会員の業績を顕彰し、細菌学およびその関連領域の科学に対する研究を奨励するため学会賞をもうける。
- 学会賞は浅川賞、小林六造記念賞（略称：小林賞）および黒屋奨学賞（略称：黒屋賞）の3種類とする。
- 浅川賞は優秀なる研究業績を発表した本学会会員に対し、小林賞は優秀なる研究業績を発表した50歳未満の本学会会員に対し、また黒屋賞は細菌学およびその関連領域の科学に対する研究の発展に寄与しつつある40歳未満の新進気鋭の本学会会員に対し、本学会総会において授与するものとする。
- 浅川賞、小林賞、黒屋賞は賞状並びに副賞よりなる。浅川賞の副賞は北里研究所研究奨励基金より寄贈される記念メダルおよび賞金をもってこれに当てる。小林賞の副賞は北里研究所研究奨励基金より寄贈される記念メダルおよび日本細菌学会から支出される賞金をもってこれに当てる。黒屋賞の副賞は日本細菌学会黒屋奨学賞基金より支出される賞金をもってこれに当てる。
- 浅川賞受賞者は受賞後、総会において記念講演を行い、その内容を日本細菌学雑誌に掲載する。小林賞ならびに黒屋賞受賞者は受賞業績に関してその内容を日本細菌学雑誌に掲載する。
- 学会賞は下記の要領により選考される。
 - 浅川賞および小林賞受賞業績の範囲は、原則として本学会（総会または支部会）において発表された業績とする。黒屋賞受賞業績の範囲は、細菌学を中心とした微生物学に関係する雑誌および本学会において発表されたもので、受賞者により主導性をもって行われた業績とする。
 - 受賞業績は、個人研究または共同研究のいずれでもよい。

- 3) 受賞対象者は個人とし、浅川賞は1名、小林賞は2名（1件1名）以内、黒屋賞は4名（1件1名）以内とする。
- 4) 小林賞受賞候補者は受賞の前年の4月1日現在で50歳に達していない者、かつ推薦締切日（7月30日）の前年同日において大学等の教授相当の職に就いていない者とする。黒屋賞受賞候補者は受賞の前年の4月1日現在で40歳に達していない者とする。
7. 学会賞受賞候補者の推薦は、本学会評議員1名とする。
8. 受賞者は学会賞選考委員会において選考され、理事会において決定される。
9. 学会賞選考委員および委員会の運営。
 - 1) 学会賞選考委員は評議員により、評議員中から選出された委員9名（但し理事長および監事を除く）をもって構成される。委員長は委員の互選による。委員の任期は3年とし、毎年3名を新たに選出する。連続しての再任は行わない。
 - 2) 選考委員の選出および委員会の運営については内規に定める。
10. 学会賞推薦の要項は別にこれを定める。
11. 本細則の改訂は理事会において決議し、評議員会の承認を得るものとする。

過去10年間の受賞者一覧

浅川賞

授賞年	受賞者名	受賞者所属	題 目
平成15年	本田 武司	大阪大学微生物病研究所	腸管感染原因菌、特にビブリオ属菌と病原性大腸菌の病原因子の解析とその応用的研究
平成16年	該当無し		
平成17年	小熊 惠二	岡山大学大学院医歯学総合研究科	ボツリヌス毒素の遺伝子および構造と機能に関する研究
平成18年	櫻井 純	徳島文理大学薬学部	ウエルシュ菌主要毒素の構造と機能及び活性発現機構に関する研究
平成19年	平山 壽哉	長崎大学熱帯医学研究所病原因子機能解析分野	ヘリコバクター・ピロリのVacA毒素受容体と毒性発現に関する研究
平成20年	山口 明人	大阪大学産業科学研究所	細菌異物排出タンパクの構造・機能とその発現制御に関する研究
平成21年	光山 正雄	京都大学大学院医学研究科 感染・免疫学講座微生物感染症学分野	細胞内寄生性リステリア病原因子による宿主免疫応答の誘導機構 ー生菌免疫の作用機序へのアプローチー
平成22年	渡邊 治雄	国立感染症研究所	病原細菌の病原性遺伝子群の発現調節と病因に関する研究
平成23年	山本友子	千葉大学大学院薬学研究院	細胞内寄生性細菌のストレス応答と病原性発現制御機構に関する研究
平成24年	笹川千尋	東京大学医科学研究所 感染・免疫部門・細菌感染分野	赤痢菌の病原性の研究

小林六造記念賞

平成15年	清水 徹	筑波大学基礎医学系	ウエルシュ菌ゲノム構造の解析と病原遺伝子発現調節機構の解明
平成16年	飯田 哲也	大阪大学微生物病研究所	腸炎ビブリオの病原性とゲノム構造に関する分子遺伝学的研究
平成17年	川端 重忠	大阪大学大学院歯学研究科	化膿性レンサ球菌の細胞附着・侵入機構に関する研究
	館田 一博	東邦大学医学部	緑膿菌に対するQuorum-Sensing Inhibitorとしてのマクロライド剤の可能性に関する研究
平成18年	川岸 郁朗	名古屋大学大学院理学研究科	細菌の運動と感覚応答機構に関する研究
	小松澤 均	広島大学大学院医歯薬学総合研究科	黄色ブドウ球菌の新規細胞壁合成関連遺伝子の同定および解析
平成19年	戸邊 亨	大阪大学大学院医学系研究科 感染防御学分野	病原性大腸菌及び赤痢菌の病原性発現に関する分子遺伝学的研究
	宮田 真人	大阪市立大学大学院理学研究科	マイコプラズマ滑走運動の分子メカニズム
平成20年	該当無し		
平成21年	富田治芳	群馬大学医学部大学院微生物学教室	腸球菌の高頻度接合伝達性プラスミドに関する研究
平成22年	該当無し		
平成23年	松本壮吉	大阪市立大学大学院医学研究科	結核菌の病原性および増殖制御機構の分子遺伝学的解析と応用研究
平成24年	該当無し		

黒屋奨学賞

平成15年	西野 邦彦	大阪大学大学院薬学研究科	薬剤排出蛋白質遺伝子資源の解析に関する研究
	和田 昭裕	長崎大学熱帯医学研究所	宿主抗菌ペプチドの発現誘導機序およびその活性に関する研究
平成16年	坂本 光央	理化学研究所微生物系統保存施設	分子生物学的手法による菌周病原性細菌の検出・定量系の確立と口腔内細菌叢の多様性解析に関する研究
	大西 真	宮崎医科大学	大腸菌ゲノムの多様性に関する研究
	藤永由佳子	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	ボツリヌス神経毒素複合体およびコレラ毒素と宿主腸管上皮細

		科	胞の相互作用に関する研究
平成17年	大原 直也	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	BCGを用いた抗酸菌の抗原性および病原性に関する研究
	重茂 克彦	岩手大学農学部	ブドウ球菌エンテロトキシンの多様性に関する研究
平成18年	小川 道永	東京大学医科学研究所	赤痢菌のオートファジー回避機構の分子生物学的解析
	黒田 誠	筑波大学大学院人間総合科学研究科	ブドウ球菌属のゲノム解析とゲノムから見える薬剤耐性・病原性因子の解析
	高屋 明子	千葉大学大学院薬学研究院	AAA ⁺ プロテアーゼによるサルモネラの病原性発現制御機構に関する研究
平成19年	中川 一路	大阪大学大学院歯学研究科	劇症型感染由来のA群レンサ球菌の全ゲノム解析
	桑江 朝臣	北里大学北里生命科学研究所感染・免疫部門細菌感染制御学研究室	ボルデテラ属細菌のタイプIII分泌機構より分泌される蛋白質の機能解析
	立野 一郎	名古屋市立大学医学部感染防御・制御学講座	腸管出血性大腸菌O157:H7の人腸管上皮細胞への付着に関する研究
	松木 隆広	ヤクルト本社中央研究所	ヒト腸内フローラ構成菌の定量的PCR検出法の確立および菌属、菌種分布の解析
	吉田 明弘	九州歯科大学保健医療フロンティア科学分野	口腔バイオフィーム形成に関する分子遺伝学的研究
平成20年	伊豫田 淳	国立感染症研究所細菌第一部	腸管出血性大腸菌における病原性遺伝子の協調的発現制御機構
	柴山 恵吾	国立感染症研究所細菌第二部第四室	ヘリコバクターピロリの病原性に関する研究
	寺尾 豊	大阪大学大学院歯学研究科口腔細菌学教室	A群レンサ球菌感染症の重症化機構の解明
平成21年	児玉 年央	大阪大学微生物病研究所細菌感染分野	腸炎ビブリオの3型分泌装置2を介した細胞毒性および腸管毒性機構に関する研究
	高橋 英之	国立感染症研究所細菌第一部	髄膜炎菌の病原性に関する研究
	三室 仁美	東京大学医科学研究所感染・免疫部門細菌感染分野	CagAタンパク質によるヘリコバクター・ピロリ胃粘膜定着促進機構の解明
平成22年	和知野純一	国立感染症研究所細菌第二部	臨床分離病原細菌において新たに発見された薬剤耐性の分子機構
	鈴木 仁人	東京大学医科学研究所	ピロリ菌の胃粘膜感染と宿主応答機構
	八尋錦之助	千葉大学大学院医学研究院	細菌毒素の宿主受容体の精製及び機能解析に関する研究
平成23年	大谷 郁	金沢大学大学院医薬保健研究域医学系細菌感染症制御学	ウェルシュ菌の細胞間シグナル伝達による病原性発現調節の研究
	小椋義俊	宮崎大学医学部微生物学教室	腸管出血性大腸菌と腸管病原性大腸菌のゲノム解読と病原性進化メカニズムの解明
	小田真隆	徳島文理大学薬学部微生物学教室	スフィンゴミエリナーゼ活性を有する細菌毒素の作用機構に関する研究
平成24年	庄子幹郎	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔病原微生物学	ポルフィロモナス・ジンジバリスの表面蛋白質の輸送と局在化に関する研究